

## 山部会WG開催報告

### 矢作川流域圏懇談会「第5回山部会WG」（根羽・平谷）開催報告

#### 1. 実施概要

##### (1)実施概要

○実施日時：平成24年8月25日(土)  
9:00～15:00

(懇親会は前日19:00～開催)

○開催場所：

【集合】グリーンハウス森沢

【WG会場】グリーンハウス森沢  
ネバーランド

【現地見学】根羽村森林組合  
(木材乾燥施設など)

○参加者：24名(懇親会)  
28名(WG)

##### (2)内容

###### 【プログラム】

- 懇親会(24日開催)
- 山部会WG(25日開催)
  - 全体会議の開催報告
  - 伊那谷の森で家をつくる会の取り組み
  - 山村再生担い手づくり事例集について
  - 矢作川流域圏森づくり・木づかいガイドラインについて
- 現地見学(有志のみ)
  - 根羽村森林組合



WG風景(グリーンハウス森沢)



WG風景(ネバーランド)



現地見学(根羽村森林組合)

#### 2. 主な会議内容

第5回地域部会WGでは、24日に懇親会を行い、25日に山村担い手事例集と森づくり・木づかいガイドライン作成の進め方について意見交換を行った。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 「山村担い手事例集」については、丹羽氏と洲崎氏が中心となり、まずは座談会を開催することになった。また、事例集の作成にあたり、これまでのWG資料をジャンル別に整理することになった(洲崎氏が対応)。
- 「森づくりガイドライン」については、まずは、東京都水道局が所有している水源林の経営計画の勉強を行うことになった(説明は蔵治座長が対応)。
- 「木づかいガイドライン」については、今村氏を中心に検討していくことになった。
- 今後の予定として、第6回WG(岡崎)は10月26、27日で開催、11月16日は15:00～第3回山の地域部会、17日は午前中に森の健康診断の報告会、午後第7回WG(恵那)を行うことになった。また、第8回WG(豊田)は、12月14、15日を予定していたが、調整がつかないため、1月11、12日で調整することになった。

### 3. 山部会WG概要

まずは、蔵治座長より、8月3日に開催された第1回全体会議の開催報告を行った上で、意見交換を行った。

#### (1) 伊那谷の森で家をつくる会の取り組み

根羽村森林組合の今村氏より、大蔵氏の紹介を行った上で、大蔵建設大蔵氏より、伊那谷の森で家をつくる会の取り組みについてお話を伺った。

- 12,3年前に南信州の山は育ったが、それを加工するところがほとんどなく、これを使わないと大変になると思い、地元材による家づくりを考えた。
- 当時は、木材の乾燥がうまくできなかった。また、根羽スギは羽目板材として使われていたものを使用量が多い構造材に使いたいと考えた。
- ただし、一人でやってもダメだと思い、「伊那谷の森で家をつくる会」をつくり、根羽の人たちと交流したなかで、現在の関係ができた。
- 10年前は、長野県の木材住宅の0.1%（10軒）しか南信州の木でつくった家が無かったが、現在では5%（400軒）まで増えてきた。また、伊那に限ると15%（60軒）まで増えている。
- 現状では、価格が外材と比べ高いので、供給量を増やすことで価格を下げたいが、少子化の影響で住宅を建てる人が少なくことを懸念している。
- 国交省ではゼロエネルギー住宅を推進しており、それに対応した家づくりも行っている。



説明風景

#### 意見交換（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ 工務店と製材工場の信頼関係を築くことが重要であり、根羽村森林組合と工務店の信頼関係が築けていることはいい。（原田）
- ・ ゼロエネルギー住宅の推進に向けていろいろと実行してもらえればいいと思う。（高橋）
  - ▶ これまで、無垢材では2階建ての家までしか建てられなかったが、「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年版）が発刊されたことから3階建てでも建てられるようになった。また、信州認証材として長野県が品質を保証しているが、全国の規格であるJAS規格の認証は受けていない。（大蔵）
- ・ 外国だと大きな木をつかった家がたくさんある。今後、JASだけでなく国際的な規格であるISOを考えていったらどうか。（高橋）
  - ▶ ヨーロッパでは集成材の文化が進んでいて材が統一されていることから、大きな木の家が建てやすいと思う。（大蔵）
- ・ 無垢材だけでなく、集成材の活用などいろいろな使い道を考えていった方がいいと思う。（高橋）
  - ▶ 集成材では4階建て以上の建物にも対応できるので、もっと市場を開拓していくことは必要だと思う。（大蔵）
- ・ 川のつながりを考えた上で、原木の乾燥や家を建てる場合に県境を越えて行うのは、県内で行うことと比べ難しいことなのか。（蔵治）

- ▶ 県を越えて家をつくることはそれほど難しくはない。ただし、工務店は家のメンテナンスを考えなければならないので1時間以内の現場を考えている。それよりも遠いところについては、他の工務店を紹介している。(大蔵)
- ・ 現状では木の切だしは注文に応じて行っているが、今後はある程度共通部材にできるという。また、一般に家を建てようと思ったら3年くらいかかるので、その間に根羽の山を見てもらうとか、自分で木を倒してみるとか、上流の森林組合と下流の工務店が組んで矢作川流域材を使った家づくりストーリーができればいい。それが根羽村の山づくりにも結びつけば、矢作川を媒体としての絆ができると思う。(今村)

## (2) 山村再生担い手づくり事例集について

洲崎氏より、山村再生担い手事例集についての説明、今村氏より、根羽村森林組合の提案事項を説明した上で、事例集作成の進め方について意見交換を行った。



会議風景

意見交換（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ この事例集をどのようにつくるかという議論になると思うが、どんな人がどんなところで、どんな思いで頑張ったり、失敗しているのか、自慢と葛藤を取材するという手法が使えるのではないか。(丹羽)
- ・ Iターンで入ってくる人がどんな思いで入ってきたのか、あるいは仲間で出て行った人(概ね50歳以下)がどんな思いだったのかを一度、車座になって座談会を行ったらいいと思う。そのことが事例集のコアになるのではないか。(丹羽)
- ・ 木をもっと活用するために流域の燃料補給基地のようなものがないと山は再生できないのではないか。現状では、山主の高齢化も進んでいることから山を再生する体力が残っておらず、そのような状況の中で、持続可能性という視点をWGの中で検討してほしい。(石原)
  - ▶ 再生産不可能な森林の維持について、上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興の推進(流域内フェアトレード)の中に入ってくると思う。ただし、すべてを同時に始めることは難しいので、自発的に始まっている優れた取り組みをまず集めてみようと考えている。(蔵治)
- ・ Iターンについて、山村をなんとかしたいと入ってきてても、なかなか村人になれないこともあるため、優れた取り組みと合わせてこのようなこともえぐり出した方がいいのではないか。(黒田)
  - ▶ 深くえぐり出さなくても、座談会を通じて、悩んだときに相談できればまずはいいのではないか。(丹羽)
- ・ WGの中でこのような集まりをすることはありだと思う。(黒田)
- ・ 自分たちの世代は子どもに厳しかったので子どもが後を継がないが、孫の世代は、地域の人が手取り足取り教えるという形で地域に受け入れられるようになってきたと思う。(沖)
- ・ 最近の若い人はおとなしいので、座談会でもコーディネートできる人がいればいいと思う。(南木)
- ・ 事例集については、具体的な作業に入るというよりは、まずは座談会的なことを行うとい

う流れだと思うが、合わせてこれまでの取り組みの課題を解決するためにどうすればいいかを話し合うことも同時進行で行えるといいと思う。(洲崎)

- ・ それでは、今後、具体的に進めていくための責任者を決めておきたい。できれば丹羽さんをお願いしたいがどうか。また、誰かパートナーも必要であるが。(蔵治)
  - 了解。パートナーとしては洲崎さんがいい。(丹羽)
- ・ 今後は、この 2 人がコーディネートして行っていきたいと思う。また、事例集に載せるものとして、豊田市以外の情報提供もしていく必要があると思う。(蔵治)
- ・ まずは、これまでのWG資料の中でも取り組みが出てきているので、ジャンル別に整理しても面白いと思う。(洲崎)
- ・ 整理については、洲崎さんをお願いできないか。(蔵治)
  - 了解(洲崎)

### (3) 矢作川流域圏森づくり・木づかいガイドラインについて

WG の場所をネバーランドに移し、蔵治座長より、森づくり・木づかいガイドラインについての説明を行った上で、ガイドライン作成の進め方について意見交換を行った。

意見交換（ ・ ご意見、提案 ➤ 回答 ）

- ・ 森林組合のある 4 つの地域については、山の整備の仕方にも地域性もあるため、統一的なガイドラインをつくるのは難しいのではないかと。作成にあたっては、こんなレベルのものというイメージを出してもらえるとよい(原田)
  - 地域性というのは、木材生産を考えた場合に出るのではないかと。公益的機能というか下流の都市住民にとってどのような森がいいのかをイメージした方がいいのではないかと。(蔵治)
- ・ 山づくりを経済林や環境林などのパターンに分けて、こういうのがいい山というものを考えていったらどうか。また、自然の力を利用した広葉樹を生かした山づくりのパターンもあってもいいと思う。(今村)
  - 森の健康診断でも議論したが、健康を測定するにあたっては、環境林の部分と木材生産の部分の混ざった測定している。今回のガイドラインでは、その両方を考えてもいいと思う。今後、すべての人工林を維持していくのは難しいので、一定程度は環境林的な位置づけに変えていくことも必要だと思う。そんなことを流域全体で考えていければいい。ただし、山主に対しては強制するものではなく、こんなものがありますよといった基準なども示せばいい。(蔵治)
- ・ メニューづくりという意味合いか。(丹羽)
  - そうである。(蔵治)
- ・ ガイドラインに入れるかどうかは今後考えるとして、森林にどのような公益的機能を求めるのかということも整理してみるのもいいと思う。(洲崎)
- ・ 山主もどのような山がいい山なのかイメージを持っていないので、いろいろなパターンが



会議風景

あれば、山主にも提案できるので、仕事がやりやすくなると思う。(南木)

- ・ 山主は何から手をつけていいのか分からないので、誰か示してほしいということか。(丹羽)
  - いい山とは漠然としている。木を切るときに根拠がないので、このような指針ができれば自信をもって施業ができる。(南木)
- ・ ここで検討するのは流域を守るという大きな視点のパターンではないか。山主に示すような施業の仕方のパターンではないと思う。(原田)
- ・ これまでの話でイメージは共有できたが、具体的にどのように作っていけばいいか。また、どのようなメンバーで作成していけばよいか。(蔵治)
- ・ 矢作川流域には1万戸の林家があるが、どこにつまずいているのか、何を求めているのか、何を悩んでいるのかを拾い上げる機会が必要ではないか。(丹羽)
- ・ ガイドラインでは、森づくりにはこんなパターンがあるというものを示したい。経済林では密度管理による対応がいいとか、環境林や広葉樹林ではこういうパターンになるということを示したい。(今村)
- ・ 矢作川流域の森の半分は人工林ではないので、それをどうするかも考える必要があると思う。(洲崎)
- ・ 大きな視点で矢作川のために山をどうしようと考えたことはなく、イメージがはっきりしないのは、自分の山の木を使わなくなったからではないか。そのため、山やまちや海の人にとって、矢作川流域圏の森をどうしたらいいということを明確にしたらどうか。(黒田)
  - これまではそれを明確に打ち出したことはなかったと思う。(蔵治)
- ・ 矢作川の恵みで生きるにあたって、こういう山であってほしいということを懇談会でいうことは意味があることだと思う。(黒田)
- ・ これまで山主のことが度々出てくるのは、ガイドラインをつくったとしても山づくりは、最終的に山主の合意が必要なので、絵に描いた餅にならないようにしなければならない。(蔵治)
  - ここでつくったものを山の村に提示していったら始めて何かが始まる気がする。それに応える山主が出てくる可能性はあるのではないか。(黒田)
- ・ 参考になるのは、東京都水道局が所有している水源林の経営計画ではないか。これは、下流の立場にたった経営という視点を持っているので矢作川の地域に合わせていけるのではないかと思う。(蔵治)
  - そのようなモデルを提示することはいいと思う。(黒田)
- ・ 整理すると、山主にとっては、いろいろなメニューがみえてくるステージがあり、その中から選ぶというニーズもある。また、下流域の人にとっては、山への要望を反映してもらう代わりに木を使う消費行動につなげていくということか。(丹羽)
  - 基本的には、受益と負担の関係があると思う。下流域にとっては、お金の出し方に工夫をすればもっと山がよくなるということ、上流域では、木材生産で山主にお金を返すだけでなく、下流にとってのメリットを考えてほしい。(蔵治)
- ・ このような壮大な理想像をつくってみたい気がする。(洲崎)
- ・ あいち森と緑づくり税のような対応を県や市でバラバラに行っているが、将来的には矢作川流域基金のようなものがあって、それを下流の人にとってよい森をつくるという観点で

使っていくことが最終系だと思う。(蔵治)

- ・ 矢作川流域のあるべき姿、イメージ、コンセンサスが得られるような文章というか、みんなが読めば分かるようなものをまとめるということだと思う。それを市町村や森林組合がブレイクダウンして自分のところのメニューづくりに反映していくものだと思う。(原田)
  - ・ 山主、行政、森林組合、下流域の都市住民の関係の方程式をつくることだと思う。例えば自分がお金を出したことがどうつながっているが見えるガイドライン、「思いやり」を見せるガイドラインがよい。(丹羽)
  - ・ 昨年の台風 12 号による災害がすごかった。そのような事態についても考える必要があるのではないか。(沖)
    - 防災上の観点も考えていく必要があると思う。(蔵治)
  - ・ ガイドラインの中では、上流域の木を使うことが、流域全体としての利益になっていることを盛り込んでいくことが必要だと思う。(原田)
  - ・ 下流との共生を考えるには、多様な木づかいを木づかいガイドラインで下流の人に気づかせられればよい。(今村)
    - サカキや山菜については、社会的なニーズはある。(蔵治)
  - ・ 例えば、ハンモックの森やウッドデッキを活用したキャンプとか、ツリーハウスの活用とか、自分が関わる森を自分たちでつくって、楽しんで、管理していくような形ができればいいと思う。(今村)
    - この話は、モデル林の設定に関わってくると思う。このようなモデルをつかって、実際に運用しながら検証できれば説明もしやすいと思う。(蔵治)
  - ・ まずは、東京都水道局の話勉強するのが必要ではないか。(洲崎)
  - ・ みなさんがよければ、次回の WG で私が東京都水道局の話の説明したいと思うがどうか。(蔵治)
    - 是非お願いしたい。(洲崎)
  - ・ それでは、木づかいガイドラインについての担当者は誰が適任か。今村さんが適任かと思うがどうか。(蔵治)
    - 了解 (今村)
  - ・ 木づかいで県境が越えられないのであれば、山を持っていない自治体と実績をつくれればよいのではないか。(丹羽)
- 最後に事例紹介として、根羽村森林組合の今村氏より、「南信州の木」を使った低コスト住宅の提案について説明を行った。

#### 【今後の進め方について】

- ・ 次回の予定としては、第 6 回 WG は、10 月 26、27 日に桑谷山荘（岡崎市民休養施設）で行うことで決定した。(蔵治)
- ・ 11 月 16 日は 15:00～山の地域部会を開催し、第 7 回 WG の懇親会を越沢コテージで開催、翌 17 日の午前中に森の健康診断の報告会、午後に山部会 WG を行うことにする。(蔵治)
- ・ 当初、12 月 14、15 日に予定していた第 8 回 WG については、調整がつかないため、1 月 11、12 日に開催することにする。(蔵治)

- ・ 今後の検討にあたっては、4つの森林組合の窓口を決めたいと思う。(丹羽)
- ・ 確認だが、若手の座談会は、WGとは別途に開催するという理解でいいか。(溝口)
  - そのとおりである。(蔵治)

以上